

子どもの貧困対策の一つとして、全国で取り組みが広がっている「子ども食堂」が15日、八戸市で始まった。会場の「はっち」2階にある「きたむら食堂」には子どもからお年寄りまで幅広い世代の人が集まり、会話を楽しみながら温かいご飯を口にしました。

八戸学院短大ライフデザイン学科で食育を専門とする佐藤千恵子教授と教える子の学生がゼミの一環で企画。地域の人が自由に集まれる場所をつくり、見守りの心を増やしたいと参加者の条件は設けていない。佐藤教授に話を持ち掛けられた、きたむら食堂の村田文子店主は「はっちで遅くまで勉強している生徒の中には、おなかをすかせている子どももいた」と、協力すること

## 温かいご飯一緒に食べよう

### 八学短大「子ども食堂」オープン

を決めた。この日のメニューは、サケのおにぎりと豚汁、デザートの特集。普段は一人食べた

を決めた。この日のメニューは、サケのおにぎりと豚汁、デザートの特集。普段は一人食べた



食事を楽しむ参加者と佐藤千恵子教授(右から2人目) 15日、八戸市のはっち

ゼミ長を務める2年の佐京みづきさん(19)は「今日来た人が身近にいる人を誘い、どんな人が来てほしい」と期待する。

次回以降の開催は、12月20日、1月17日、2月21日の予定。時間は午後5時〜7時。高校生以下無料、大人300円。いずれも20食限定。12月から月に1度、同市柏崎2丁目の「あおば食堂」でも始める。

予約、問い合わせは八学短大の佐藤教授 電話0178(30)2109へ。

(瀬戸麻理乃)